

第4回安佐市民病院跡地活用検討協議会議事録

1 日 時 平成28年3月29日（火） 午後2時00分～午後3時50分

2 場 所 安佐北区役所4階講堂

3 出席者（五十音順（市職員を除く）、敬称略）

岩重 守（安佐北区コミュニティ交流協議会副会長）

大島 正彦（安佐北区コミュニティ交流協議会会長）

尾田 豊機（安佐北区コミュニティ交流協議会副会長）

中平 吉子（安佐北区コミュニティ交流協議会副会長）

坊 聡彦（可部地域町内会自治会連絡協議会幹事）

松井 修（可部地域町内会自治会連絡協議会幹事）

向井 文武（安佐北区コミュニティ交流協議会副会長）

阪谷 幸春（広島市企画総務局企画調整部長）

児玉 尚志（広島市安佐北区役所副区長）

4 議 事

(1) 民間事業者への聞き取り調査結果

(2) 跡地活用案の課題等の整理

5 議事内容 以下のとおり。

< 開 会 >

大島座長 それでは、御案内した時間になりましたので、第4回安佐市民病院跡地活用検討協議会を開催したいと思います。
皆さん方におかれましては、非常にお忙しい中、お越しいただきありがとうございます。
この時期は非常に寒暖の差が激しいため、体調面には十分御注意いただければと思います。
ところで、今回で4回目の協議会になりますが、引き続き皆さん方の意見を聞きながら進めてまいりたいと思いますので、よろしくをお願いします。
それと、傍聴席に議員の先生方がお見えになっています。いつも、ありがとうございます。どうぞ、よろしくをお願いします。
また、傍聴席の方におかれましても、よろしくをお願いします。
最初に前回の民間事業者の聞き取り調査について、一部保留といますか、調査中の事業者がありましたので、まず、そちらについて事務局から説明をいただいて、皆さんの意見を伺いたしたいと思います。
それでは、事務局から説明をお願いします。

事 務 局 （「資料1 民間事業者への聞き取り調査結果」説明）（企画総務局政策企画課）

大島座長 前回提案されたものについては、それなりに検討されていると思います。
これで一応、我々委員から、あるいは可部自治連から提言させていただいたものについて聞き取り調査は終わりと解釈してよろしいですか。

- 事務局 民間事業者への聞き取りはこれで終わりになります。
民間事業者の意向も分かりましたので、この資料を参考により実現性の高いものは何かということで、御議論いただければと思います。
(企画総務局政策企画課)
- 大島座長 今、事務局から話がありましたが、この件について全体的に何か御意見ありますか。
- 尾田委員 前回の協議会で、教育機関が2ヘクタール必要とありましたが、教育機関が最低どの程度必要かということについては聞いておられませんか。
- 事務局 教育機関に関しては、前回の協議会の場でも尾田委員がそうしたことを言われまして、その後、大島座長の方からも、面積がどれくらい必要かということも含めて話を聞いてみたいということで、この場に呼んで来て話をしてもらうようなことをお願いできないだろうかという御意見があったと思います。
その話を受けまして、前回の協議会が終わってから私どもから教育機関に伺いまして、話を聞いております。
その時に私どもの方から話をさせていただいた内容は、まず、安佐市民病院の跡地に参入したい、関心を持っていただいたということに対して、非常に感謝をしたいということ、それと、面積について、この協議会の場で2ヘクタール全部使うということについては、委員の中からも疑義がでていますという話をお伝えさせていただきました。
その上で、この協議会の場で話を聞いてみたいということで、そのことを御検討いただけないでしょうかということ、教育機関に話をさせていただきました。
その話を受けまして、今、教育機関で、面積をどうするか、この場に来て皆さんに直接説明をされるのかどうか、そうしたことを含めて御検討いただいています。
まだ今日の時点で、回答はいただいておりますので、もう少しお時間が掛かるものと思います。
面積の話ももう少ししっかり教育機関の中で検討いただいておりますので、何らかの回答がいただければ、また次回の協議会かどこかで御報告はさせていただきたいと思っておりますし、もし、教育機関ご自身でこの場に来て説明したいということであれば、直接、皆さんに御説明できると思います。
今はそういう状況です。
(企画総務局政策企画課)
- 大島座長 前回の協議会でプレゼンテーションしていただいたらどうかということの回答を事務局がされましたので、この件については回答があり次第、次回以降にそういう場を設けるようお願いしたいと思います。
- 事務局 (「資料2 跡地活用案の課題等の整理」説明) (企画総務局政策企画課)
- 大島座長 はい。ありがとうございました。
短期間の間にまとめていただきまして、ありがとうございます。
今の事務局からの説明を踏まえて、質問、御意見を聴きたいと思っております。
- 坊委員 今、事務局からたくさんの事例を検討していただいた結果を報告していただきましたが、我々の可部自治連の代表といたしましては、まず、この協議会を設置するときの局長の発言にもありましたように、可部自治連の提言を尊重するというのもありましたので、その辺のことについては、「可部自治連の提言との関連」というところで重く思っているのは大変ありがたいと思います。
ただ、どの事例をとっても、課題・検討事項というものがある、一長一短があるということなので、非常に決めにくいところがあると思います。
特にアンケートは、可部自治連が出しているアンケートの2位で文化ホール・図書館があったわけで、それも、安佐北区民文化センターの移設は耐用年数等の関係があつ

て、難しいのではないかということになると、どれも不可能ということになります。そうは言っても、将来的なことを考えたときに、いざ、建て替えの時期が来ました、建て替えをどうしますかとなったときには、どこにも土地はなくなっていて、もうそのときには、学校が建っていましたということにならないような検討をしておく必要があるのかなという気がいたしました。

これを全部一つずつ見ると、私どもにどうして欲しいのか、どういう意見を出したらいいのか迷ってしまいます。

あくまでも我々が求めているのは、安佐北区の人口減少が起きないように、賑わいのあるようにしたいと常々思っていますので、その点をもう一回いろんな視点で、もう少し掘り下げて、絞り込んでもらうという作業もいるのかなという気がします。

私はあえてそういうことを皆さんに提言したいと思って発言しました。

大島座長

はい、ありがとうございました。非常に多岐に渡ってあるので、もう少し絞り込んだらどうかという御意見と理解させていただきます。

そのほかの方で、何かございますか。

尾田委員

今の御意見に関連しますが、文化ホールが耐用年数的にあと17年間使えるとして、計算しますと、安佐市民病院の南館の空き地が空くのが6年後とすると、区民文化センターはそれから（南館解体後）10年で、耐用年数が来ることになります。

その場合に、市は、文化センターを壊して現在地に建て替えられる方針なのか、それとも別の場所、先ほど坊委員もおっしゃいましたように、跡地の方を考えておられるのか、その辺のことがある程度はっきりしないと、跡地には恒久的な施設は建てられないのではないかと思います。

例えば10年間使用した後に、跡地へ文化センターを建てるとなると全部取り払って改めて作るというふうな形になろうかと思います。

その問題ともう一つは、私が冒頭で言いましたように、教育機関の方々が本当にどの程度欲しているのか、その点がはっきりしないことには、なかなかそういう絞り込みは難しいのではないかと思います。

その点、市と教育施設の方向がある程度はっきりしないと、この場で産直市がいい、何がいいという話は、なかなか絞り込みは難しいんじゃないかと思います。その点、市はどのように考えておられますか。

阪谷委員

ありがとうございました。

今、事務局から区民文化センターの耐用年数は、税法上でいいますと50年ということがございました。そうしますと、今、おっしゃいましたように、あと17年ほど使えます。

それと物理的な寿命でいいますと、鉄筋コンクリートのような堅牢な建物は65年くらいは耐用年数があるとなっています。そうであれば、あと32年は使えるということになります。

税法上の耐用年数は50年ですが、実際の寿命は延びるのではないかと考えています。

建物の寿命がきて更新しますということになったときに、市が勝手に結論を出すのではなくて、地域住民の皆さんときちんと合意形成を図って、建て替える方針にしましょうとか、建て替えるのは現在地にしましょうとか、あるいは移転しましょうといったことをきちんとお話をしながら進めていかないといけないというのが、市としての考え方です。

例えば、尾田委員がおっしゃったように、6年が過ぎてあと10年で建替えになるかもしれないといったときに、その段階で10年後には建て替えますということは、今の段階では決められないと考えています。

ですから、今おっしゃったように、確かに教育機関の意向、つまり、敷地をどのくらい残してもらえるのかというのはあると思いますが、区民文化センターに関していえば、将来、17年とか20年先に建て替える、あるいは跡地に移転するということは、今の段階では行政としては言えないと考えています。

坊委員

そうすると、考え方として、そういう措置をある程度見越して、何か暫定的なもので使っておいて、それで残しておいた方が有利であるかも分からないということにもな

りますよね。

阪谷委員　そうですね、暫定的というよりも、例えば、地域の皆さんが、安佐北区民文化センターが今よりも跡地にあった方がより利便性が高まるのではないかと、あるいは賑わいが生まれるのではないかとお考えであれば、将来、建替えの候補地となり得るということも考えられて、跡地の活用を考えられるという方法はあるのではないかと思います。

大島座長　そのほか何かありますか。

松井委員　皆さんの御意見、提案と重なりますが、これから検討することは、跡地にどんな機能を求めていくのかということと、今日の検討事項とか実現可能な点についての検討となると、民間事業者は撤退ということも含めて、何をやるにしても難しいとすれば公共施設、その上で何の機能を求めるかということになると思います。

それと、大学の学部については、国の認可・申請等の準備がスケジュール的に長い期間が必要ということは分かっていることで、しかも、跡地2ヘクタール全部を占めていただいたのでは、若い学生の人口が増えるということも考えられますが、賑わい創出ということを私たち求めていけば、これだけで占めてもらっては困るということになります。

それぞれ、民間事業者、教育機関、福祉施設等で関心がある企業が10社にのぼっているわけですから、では、その関心を持っていただいた10社の企業等が、どの程度実現可能性を持って、これから跡地の活用を考えていただいているのかは、やはり、ある時点でお聴きする必要があると思います。

やはり、区民文化センター的な機能について、今、建替えの話が出ましたが、各区にこれだけのものが必要かどうか統合の可能性について、市の中にそういう検討を行う部署があるのではないかと思います。

それをやはり私たちは知っておく必要があるのではないかとと思うのですがいかがでしょうか。

阪谷委員　松井委員から施設の統合を検討する部署があるのではないかと話ですが、私のいる企画調整部の中に、分権・行政改革推進課という課がございまして、この中で、来年度に「公共施設等総合管理計画」というものを新たに作ることにしています。

これは、どういう計画かという、今、市民の身近な施設になっている区民文化センターのようなハコモノ施設、それと道路とか橋のようなインフラ施設、これらの管理を今後どのようにやっていくのか、その中には、今、松井委員から話がございましたように、これからどんどん施設が老朽化していくといったときに、ニーズの少ない機能は落として集約するとか、あるいは、複合化していくということをいろいろな形で検討していく、あるいは、その施設をどのようにすれば長くもたせることができるか、ということを中心に考えているところです。

大島座長　区民文化センター等々については、前回の議事録の中に阪谷委員の方からコメントが入っておりますので、もう一度、読んでいただけたらと思っています。その他の方で何かありますか。

中平委員　私は、一案だけで占領するのではなくて、いつも言っていますが、コミュニティセンターとあとは産直市場、それを、深めたものだと思います。

それで、私、実は今日考えてきたことは、コミュニティセンターの中で、コミュニティの事務所というのを設けていただいて、コミュニティの参加団体が、いつでも手配や資料を作ったりできる、事務局をコミュニティセンターの中に作って、私どもがいつでも出入りができて、パソコンが使えたりできる、そういうものを作っていただきたいと思ってきました。

大島座長　ありがとうございました。
岩重委員、何かございますか。

岩重委員　私も、先ほどから、いろいろと皆さんの御意見を聞かせていただいておりますが、いろ

いろな施設・機能が皆さん方からの要望として出てきているわけですが、これらを土台として、子ども向けの施設、子育ての世帯向けの公園・イベント広場、産直市場という複合的な施設で、これに伴い人口も若干増えてくるんじゃないかというような希望も出るんじゃないかと思います。

集会的なホールみたいな建物じゃなくて、そういう複合的な施設で土地が許す限り駐車場を広く確保したり、イベント広場、子どもの遊び場、いろんな機能を複合した施設がいいのではないかという気がします。

大島座長

ありがとうございました。

そのほか、何か言い足りないことなどございませんか。

児玉委員、何かございますか。

児玉委員

先ほどの、中平委員からのコミュニティセンターの事務局的なスペースがあればという話で、ちょっとそれるかもしれませんが、それは、多分、区レベルの各地域団体が共通にお持ちのニーズであるかもしれません。

それであれば、跡地に場所を特定する前に、例えば、区役所内のスペースでそういった利用ができるような使い道ができないかという検討もあるかなというふうにお伺いをしました。

それから、もう一点、先ほど冒頭にもありましたが、人口減少、高齢化もどんどん進んでいく中で、地域に目を移したときに、今まで何不自由なくやっていたこと、あるいは利用していた施設に行けなくなったり、不便を非常に強く感じてくることもあると思います。

そういうときに、今からごく身近な地域で必需的な機能、施設は何かということも一つあったうえで、今までは区に一つしかない大きなものが、あるいは数個の規模のものがあっても、（これまでは）行けていたけれども行けなくなったので規模はそんなに大きくなくてもいいのもっと身近にあったほうが良いという機能のもの、あるような気がします。

ちょっと、応用問題になってきたと思うのですが、先ほどから、区に一つあって、周辺も含めた集客機能、賑わいを深めるようなもの、当然それは考える必要があるし、それと同時に、今まで、先ほど言いましたような面で、今後は少し身近に分散した方がいいようなものもないかということ、ある程度縦糸と横糸といいますか、そういった考え方で見ていく必要があると思いました。

ちょっと抽象的で申し訳ないですが、以上です。

大島座長

ありがとうございました。

今回いろいろな方面からデータをまとめていただいた中で、やはり住民、区民が求めている区民文化センターの利便性を考えたときに、耐用年数とかいろいろあろうかと思いますが、やはり住民が一番求めているものは何かといったときに、今の区民文化センターの利便性が悪いと、この際、下へおろしたらどうかと意見があるのであれば、それは耐用年数に関わらず、地域の方・住民の思いを踏まえて検討してみるということも必要ではないかと思います。

ただ、ハコモノはどうかということがあろうかと思いますが、その中で、区に一つあるのではなく、区に二つもあってもいいという考えも成り立つのではないかと、私の個人的な意見としては思います。

今、委員からいろいろ出ました意見を事務局でまとめていただいて、今後どうするかということであろうかと思いますが、今の時点で、事務局から何かありますか。

阪谷委員

ありがとうございます。今回資料2でお示しさせていただいている「跡地活用案の課題等の整理」は、先ほど尾田委員がおっしゃられたように、教育機関がどの程度例えば必要なかというような議論はあると思うのですが、地域の活性化に資するような施設として、こういったものが本当に必要なかというのを、今回議論いただくための資料だと思っています。

そうしますと、例えば、事務局の方で実現に当たっての課題検討事項をこんなふうに書いているがこれはちょっとおかしいのではないかとか、こういうふうに前向きに考えられることもあるのではないかとか、あるいは波及効果についても、こういう後ろ向きな捉え方ではなく、前向きな波及効果も期待できるのではないかとか、そういう

ことを少し議論いただきながら、じゃあ、この施設は跡地に整備する可能性が結構ある、あるいはこの施設は今ちょっと可能性がないとかいうのも、この場で議論していきながら整理していくということをしておかないと、おそろくなかなかまとめていくのが難しいのではないかという気がしています。

そこで、委員の皆さんのご意見も伺いながら、進め方を少し考えてみてはどうかと思った次第です。

坊 委員

その前に、ちょっと市に聞いてみたいのですが、人口減少とか、あるいは周辺市町とか、そういった大きな捉え方を市長さんがよく言われるのですが、そういった考え方の中で、安佐北区をどのような方向に持っていこうという考えはないですか。

例えば、人口減少に基づいて、少子化対策は何もせずに住民から何か意見が出てくるのをじっと待っているのか、そうじゃなくて行政として、少子化対策は何か対策を立てていこうと、そのためにはこういうことを考えようというのがあるって、それで賑わいとかそういったものが創出できるのなら、跡地を有効利用するというのを意見として考えることもできると思います。

また、周辺市町の受け皿で、全体で「200万人広島都市圏構想」とかいうことをおっしゃるのなら、その北の玄関口でどういうふうなことを考えて、賑わいをつくっておこうというような市の基本的な考え方を何かお持ちではないんですか。

阪谷委員

市議会で先日議決をいただいて、新年度予算の御了解をいただいたところですが、市の企画調整部で、将来の広島市の人口がどのように推移していくのか、2060年までを見据えた「人口ビジョン」というものを作っています。

現在、広島市には119万人の人口がいますけれども、2060年、今から45年先でも人口110万人を維持しようと考えています。

国の推計では（2060年には）90万人ぐらいになるのですが、それを110万人を維持しようと考えています。

人口減少は必ず起きる現象です。しかし、それを如何にして緩やかに減少させていくのか、そのためには、出生率の向上を図るということと、若い世代の方を我々の地域から出さない、東京圏や関西圏に行かなくても、この地域で仕事をして、子どもを育て、そして人生を終えると、そういうことができる、そういった地域にしていこうと考えています。

そのために、このたび、広島市の「総合戦略」を作りました。

その中には、坊委員もおっしゃられたように少子化対策であるとか、働く場所を確保するであるとか、安心・安全な地域づくりというようなことを総合戦略の施策の中で考えています。

もう一つは、ヒト・モノ・カネ・情報の循環は、広島市だけではなかなかできません。現在、広島市内の企業で働かれる方は、広島市以外の例えば府中町、東広島市や廿日市市などから来られています。それによって広島市の企業の運営が成り立っています。

一方で、広島市で作られたものは、廿日市市であるとか、大竹市であるとか、安芸太田町などの周辺市町で消費されています。

広島市と周辺の23市町の人口を減少させないために、広島市を含めた広域都市圏24市町が一緒になって、経済の成長をけん引するとか、都市機能の充実を図るとか、あるいは行政間で連携してその地域の住民がいろいろなサービスを利用できるような、そういった地域を作ろうとしています。

そういうことを今から展開しようとする中で、この安佐北区の跡地の活用も、そういう意味では、人口減少を克服するための一つの事業だと考えています。

これをやれば安佐北区が全てよくなるというわけではありません。

これ（跡地活用）も含めて、子育てであるとか、経済活動であるとか、様々なことを一緒に絡ませながらやっついていかないと、人口減少は克服できません。

我々が思っていますのは、以前市長が地元で説明を行ったときに、安佐北区については、今まで十分な力を注げなかった、そのことを反省し、今からは、きちんと安佐北区のまちづくりをしっかりとやっついていくことで、この安佐北区をさらに活性化していきたいというふうに発言していますので、この事業ももちろん力を入れていきますし、そのほかの事業についても力を入れていかないと、人口減少は克服できないと思っています。

こういうまちづくりを我々市の職員は、企画調整部だけではなくて、区役所やそのほかの関係部署も一緒になってやろうということで、今皆さんとお話をさせていただいていると、そういう思いでいます。よい街をつくって、すばらしい安佐北区というのを実現したいと思っていますので、そこはご理解いただきたいと思いました。

向井委員

私も、先ほどの提案や意見を聞いていると、可部と安佐というのは、非常に地形的にも結びついているというようなことの中で、文化センターを可部の中に移設と、こういうふうなことをおっしゃっておられるんだと思っています。

ところが、やはり、今の可部・安佐と、そして高陽・白木は、地形的にも全く違って、人口の関係も違っているというようなこと、文化センターが二つできるものなら、10年先、あるいは15年先に移設ということも考えてもいいのではないかと考えています。

これは、やはり今の高陽・白木を踏まえた中で、以前、高陽・白木を分区してほしいと、こういうようなことで随分陳情したり、いろんなことをやりました。

今の病院の問題にしても、やはり根底が今まで反対したというのが、高陽の方がおいてけぼりをくっていると、ここに一つの大きな根っこがあるというようなことをよくよく心得てほしいと思っています。

それと、今もやはり商業施設について、なかなか運営も難しいなど、これをどういうふうな形で、市が運営するのか、あるいは貸すのか。

例えば、道の駅を国が助成して作っておられるわけですが、なかなか上手く活用・運営していないですね。

今の道の駅は、通りすがりでちょっと買い物をしてくるとか、ちょっと寄ってみるとかというような使われ方をしている。

ここに持ってきて、安佐北区の4町が、本当に作ってよかったなというようなものは何があるのか、運営が本当にこれからできるのかどうかも、よくよく考えた中でやらないと、高陽、あるいは白木、安佐町にしても、そんなに大きなものでなくても、小さなものでこじんまりしたものだったり、例えば産直市にしても、できたものをうまく販売するということはどこも皆狙っていると思います。

ここへ持って来てとか、ここで本当にいいものをとというようなことは、なかなか物を集めるのも難しかり、そして、ここで、そういうことをやるのも難しいのではないかと考えています。

そうなるってくると、先ほど、坊委員がおっしゃいましたように、これを全地域で本当に良かったなというようなものを、市が何に力を入れてやっていくのかということをお聞きされたと思います。

子育てとか、あるいは経済を活性化させるとか、賑わいづくりということになってくると、では経済で何を物流的なものを持って来た方がいいのか、あるいは、知識とか、学校とか、あるいは、経済の中心地になるような技術を集約したようなもの、何であるかはすぐには私も言えないですが、そういうものをここに置くようにしたらどうだろうかとか、そういうような議論を進めるのがいいのではないかと考えています。

今までの議論を打ち消したようなことになって、申し訳ないのですが、そこら辺りを市としても、やはり市が本当に指導力を持って、そしてこういうふうな街にするんだという根底がはっきり見えないと、なかなか結論が出てこないんじゃないかと思っています。

大変御無礼なことを言って申し訳ないのですが。

阪谷委員

ありがとうございました。

二つあるのですが、一つは行政として高陽地域をおいてけぼりにするつもりは全くありません。

今それぞれの地区でまちづくりを考えていらっしゃると思いますので、その中で具体的な提案を高陽地域からも出していただいて、それが高陽地域のまちづくりに資するものであれば、今年の8月に、ぜひ御提案していただければと思います。

もう一つは、行政がどのようなまちづくりをしようとしているか、その心持ちの話ですが、その部分は若干違うと思っています。

それは、どう違うかと申しますと、よく我々が言っていますが「自分たちのまちは自分たちで創る」という考え方が基本になっていまして、もし、行政がこういうことを

やりたいということであれば、我々が最初からこういう企画でいかがでしょうかというものを御提案すればいいのですが、そうではないというのが今回の協議会だと思っています。

今、向井委員がおっしゃいましたが、どういう機能を導入すれば賑わいに資するのかということをおっしゃる方が地域の声や可部自治連からの提言を踏まえて、ここで御意見を整理していただきたいと思っています。

ですから行政が進めるのではなくて、皆さんが導入する機能を整理するという事で議論を行っていただきたいと思っています。

松井委員

市長が安佐市民病院の移転を契機に安佐北区及び可部についてのまちづくりを本格的に取り組むという方針を示していただいたわけですから、跡地の活用については、やはり可部自治連からの提言にあるアンケートの2位のホール・図書館等の施設・機能を跡地に持ってくるような必要が出てくるのではないのでしょうか。

その中で、今回示された「実現に当たっての課題・検討事項」については、非常に難題が多くあります。

しかし、南館を取り壊して新たに施設を設けるのは6年から8年先くらいになるとすれば、区民文化センターの耐用年数の残り17年から8年を引くと9年しかありません。

市長が安佐北区のまちづくりに本気で取り組むという姿勢を示していただいた以上、耐用年数が後何年という議論ではないと思います。

安佐北区の拠点整備としては、やはり文化・芸能施設、図書館という文化施設が必要ということで、ぜひともこれだけはという施設を市長も交えて議論する必要もあるのではないかと思います。

早急に何もかもを決めていくのは難しいので、もう少し時間をかけて議論していきたいと思っています。

それと、やはり大学等、教育関係の事業者がどの程度本気なのか、具体性を持った跡地活用を考えていただいているのかについて、また別の機会にお呼びして意見を交換する必要もあるのではないかと思います。

大島座長

今、たくさんの意見をいただきました。

先程、阪谷委員から19件ある施設・機能を絞り込んでどうかとの意見がありました。

この件については皆さんどう思われるのでしょうか。

坊 委員

19件は尊重しますが、この19件は、一つのたたき台として理解させていただいて、そして議論する中で別の施設・機能が出てきてもいいのではないかと思います。

要は、従来、可部地域と高陽地域に多少の溝があって、市民病院の移転問題で少し意見の食い違いがあったわけですが、ここはそういった過去のわだかまりは捨てて、一つにまとまった気持ちを跡地利用に現わしていきたいという思いでやっていきたいと思っています。

19件から一つ一つ消していくのではなく、逆にこれを議論する中で新たな施設・機能を考えても良いのではないかと思います。

大島座長

19件に拘らないでという意見ですが、先程から出ているように、人口減少を食い止めて、賑わいを創出するというのが基本的な跡地活用の考え方でした。

その中で、1回目、2回目の協議会で各委員からの意見をいただいて、19件ということになりました。

まだ、時間もあるのでこの件については、もう少し意見を聴きながら進めていきたいと思っています。

今、坊委員が言われたような形、あるいは別の意見があればお願いします。

松井委員

確かに19件はたたき台にするとして、新たにということでイメージが湧いたのは、北館に整備されるこれからの医療というものが非常に期待の大きいものがあります。その中で北館の医療整備だけではなく、共有する医療機関の整備も考えられると思います。

例えば、近隣の民間医療との競合性が出てきますが、何か北館をフォロー、共有でき

るような医療施設の整備が何か考えられるのではないかという思いがします。
これもこれからのたたき台として皆さんで検討できるようなものを引き出していければと思います。

大島座長 北館は1ヘクタールということで進めています。
可部自治連の提言の中で、病院と学校と文化センターのうち、病院が分化整備で1ヘクタールとなっています。
これは私の単純な疑問ですが、北館がどういう形になるか今議論をされているということ、それから4月に説明会を行うということですが、北館整備は1ヘクタールで完全に足りるのでしょうか。
協議会では様々な意見を出すわけですから、後から北館の敷地面積が足りなくなってもいけませんので、この点について話せる範囲で教えていただけますか。

事務局 現在、4月の説明会に向けて北館の配置のイメージを整理しているところで、北館の建物を中心に駐車場をどの程度確保できるか検討しています。
駐車場を約120～130台整備すると大体1ヘクタール程度の面積になると考えています。
4月には、もう少し精度の高いものをお示しできると思います。
(広島市立病院機構)

大島座長 そういうことで、絞り込み、あるいはいろんな意見を出してもらおうという作業を進めていくということでしょうか。
月に1回の会合では、なかなか難しい面もあろうかと思えますし、もう少し時間を十分に使ってやっていったらいいのではないかということもあろうかと思えます。
この件に関してもう少し皆さんの意見を聴かせていただきたいと思えます。

尾田委員 今までのことを総合的に判断して、可部地区からの要望、その他を踏まえると大きく3つに分かれるのではないかと思います。
と言いますのは、文化ホール的な施設、教育機関、産直市場のこの3つの意見が非常に多いわけです。
産直市場をどうするか、例えば子供向け施設を導入するとか、そういったことも考えられると思うのですが、その点から言いましても、先程申しましたように、現在の文化ホールと教育機関の扱いがはっきりしない中では、絞り込みといっても難しいのではないかと思います。
ある程度、文化ホールと教育機関の意向が分かれば、それに向かって進むこともできるのではないかと思います。

大島座長 今、教育機関の話が出ましたが、教育機関からのプレゼンが今のところ難しいということでしたが、次回にプレゼンを行う可能性はありそうですか。

事務局 可能性としてはあると思います。
ただ、当然、学校法人ということでやはり競争相手がいらっしゃるということもあって、どこまで公の場で話ができるか悩んでいらっしゃるのだと思います。
教育機関から皆さんに対して、この場で説明したいということであれば、ぜひ次回にお願いしたいと思えますし、もし、次回が難しいということであれば、例えば私共が話を聴いてお伝えすることもできるかと思えます。
特に皆さんの関心事は面積のことだと思いますので、プレゼンが難しければ、私共が代わりに聴いて皆さんに御説明をすることはできようかと思えます。
(企画総務局政策企画課)

大島座長 確かに2ヘクタール全てとなると、我々が検討するものが配置できなくなるので、できるだけ早くお願いしたいと思います。
それでは、今後どういう方向に持って行きましょうか。
新たにこういう案はどうかということと、現在提案のある施設・機能について可能性の有無によって絞り込む形をとるのか、もう一度近いうちに集まっていたいで皆さんに検討いただくか、この二つのどちらかにしていければと思いますがいかがでしょうか。

か。

中平委員

私も当初は、現在の区民文化センターは、すごくアクセスの不自由なところにありますので、区民文化センターを移転すればいいのではないかと思いました。そうすると現在の区民文化センターの別の活用が問題になるので、そのことは言わないようにしていました。そのため跡地には、文化センターとは異なる施設としてコミュニティセンターができればいいなという思いでした。教育施設は、事業者が2ヘクタール希望されているので、もしそうすれば簡単な話ではありますが、この協議会の意味はあまりなくなります。言いたいのは、安佐北区民文化センターの移転がいいのではないかという思いではあったということです。

向井委員

先程、尾田委員が大体三つに絞られるのではないかとと言われて、一つは文化センターの移転、それと教育機関、それと産直市場ということでしたが、やはり4町が合意できるものとしては、コミュニティセンターがいいのではないのでしょうか。今、高齢者が行くところがなくて、家やスーパーの休憩所でテレビを見たりするくらいしかない。コミュニティセンターのような高齢者がお金を使わずに集えることができ、一日を楽しく過ごせる施設も必要ではないかと思えます。そして教育機関については、可部は工業の街であったということもあるので、介護や福祉ではなく技術的な勉強のできる学校も考えられてはどうでしょうか。マツダをはじめ地元の工業系の企業もそういう人材を必要としていると思えますし、市も現在、そして将来の経済を睨んだ中で、そういうことも考えているのではないのでしょうか。

大島座長

19件プラス何かいい案があれば出してもらおうということでもよろしいでしょうか。これを各委員に整理してもらおうのか、事務局から整理してもらって協議会でコメントするのか、事務局はどう思われますか。

事務局

その前に、これまでの委員の発言について事務局から回答しないといけない部分が幾つかあります。まず、関心のある民間事業者に聞き取り調査を行っていますが、その本気度について話を聴いてみたいとの御意見が松井委員からもありました。関心を寄せた10社の民間事業者は、皆さん本気です。仮に現時点で跡地活用について公募を行えば、間違いなくこの10社は手を挙げてくると思えます。そのくらいの本気さを皆さん持っておられます。ただ、スケジュールとして跡地を売り買いできるのは、今から7年後になります。ですから皆さん本気ですが、7年後のことについて企業としてプレゼンをするのは難しいということでした。それと、もう一点、先程、阪谷委員からありましたとおり「自分たちのまちは自分たちでつくる」というのが基本ということでした。そして「自分たちのまちは自分たちでつくる」という理念のもとにできたのが可部自治連からの提言であったと理解しています。可部自治連から跡地活用に導入する施設・機能について幾つか提言をいただいているのは、もちろん行政に対する要望という面もありますが、それ以上に重要なのはその可部の人たちが人口減少を食い止めるために、可部のまちはこうあるべきだと、そのためにも安佐市民病院の跡地には、こういう施設を整備しないと可部の街は人口が減少すると、可部の人たちの「自分たちのまちは自分たちでつくる」という思いの結晶が可部自治連の提言だと思っていて、そこに地域の人たちの想いは結晶されていると理解しています。そのため、今回の評価の中でも方針の一つに「可部自治連からの提言を踏まえる」という項目を入れているということです。そういうことで、それは大切にしないといけないと考えています。そのうえで、提言以外にもいろいろ御意見があるということで、皆さんから御意見を

伺って19の施設・機能になっているということを御理解いただければと思います。もちろんこれ以外にも御意見があれば、新たに募集するというのではなく、この協議会の場で御議論いただければありがたいと思っています。

もう一点、前回、今回と文化センターが随分大きなテーマになりました。

前回の協議会で、区民文化センターのことを整理した資料を出してほしいということで、我々事務局も区民文化センターをどうするかということを検討させていただきました。

結論としては、建替える、建替えないを決断できる状況にないということで、今回お示しさせていただきましたが、ただ、御理解いただきたいのは、いずれ建替えは必要になるということです。

今回も資料で示させていただきましたが、現在地の場所的評価はよくありません。駐車場が狭いこと、急な坂の途中にあること、公共交通機関も駅から離れています。決して便利な場所ではないということの認識の中で、いつかは建て替えが必要になります。

その建て替えの場所として、向井委員からもありましたように可部なのか高陽なのかという議論もあるでしょうし、そういう中で当然現在の病院の跡地も候補地の一つになり得るということで、それを念頭に可部自治連の方からも文化センター移転の提言があったものと考えています。

そういったことも、しっかりこれまでの資料に出させていただいていますので、そういったものも踏まえて御議論いただければと思います。

(企画総務局政策企画課)

大島座長

要するに可部から提言書が出ているのは事実であって、あと皆さん意見を整理したものが19件だと理解しています。

これ以外に新規性があるものもあるのではないかとということでした。

事務局

もし、新しい御提案があれば次回の協議会でお話しいただくことは構いません。

ただ、皆さんに1つずつ出してくださいというようなことは、事務局としては考えていません。

事務局としては新しい提案は受け入れますが、可部自治連の提言をベースに出てきている19の案をそれぞれ課題も今回整理しましたので、その中でより跡地にふさわしいものは何かという観点で今後少し整理をしたいと考えています。

(企画総務局政策企画課)

坊委員

19の案が悪いと言っているわけではありません。

いろいろ課題があるので、その課題をクリアしていこうとするときに、この中からこれとこれを少し手直ししてこういう案はどうかというのもあっていいのではないかとことを言いたかったのです。

そして、もう一つは阪谷委員が言われたように、広島市として若い人の定住や働く場所、あるいは周辺23市町も考えているというのが一つのポイントだと思います。

そういうことを考えれば、こういう施設・機能がいいというのはおのずと絞り込めるのではないかと思います。

19の案がありますが、その中には実現可能性が明らかに低いものもありますので、これを少しグループに分けて絞り込んでいけばよいのではないかと思いますので、それを今やるのは時間が無いので、次回までに考えてくるということにしたらいいのではないのでしょうか。

大島座長

ちょっと無責任な言い方ですが、そういうことにしましょう。

地域性がある中で皆さん方に可部にある跡地をどうするかという考え方を示していただくのは非常に難しい面もあろうかと思っています。

そういう中で、たくさんの意見をいただいています。

今、坊委員が言われたような方法をとって、次回までに3つか4つくらいに絞ってもらって、基本はあくまでも可部自治連の提言を中心に検討してもらったということですから、それに近いものにしてもらうのがいいのではないかと思います。

そういうことでよろしいでしょうか。

(各委員了承)

大畠座長

それでは、次回の日程について調整したいのですが、4月の27日または28日の御都合如何でしょうか。

(各委員から4月の27日、28日の予定について発言あり。)

大畠座長

それでは、4月28日(木)14:00からにさせていただきます。

長時間にわたりありがとうございました。

やはり安佐北区が消滅可能性都市として言われていますので、それを食い止める一つのきっかけに跡地活用の事業をしたいとの思いもあります。

ぜひ皆さんの納得できるものを市に提言したいと思っていますので、今後ともよろしくお願いします。

本日は、ありがとうございました。

< 閉会 >